フィールド（現場）からの風 696

宮田守男

速度オーバーできない実態を知るべきだ

きょうは「中央線開業記念日」。1889年に中央線の前身である「甲武鉄道」新宿から立川が開業。現在は東京駅から新宿駅・塩尻駅を経由して、名古屋駅まで結ぶ鉄道幹線として運行されている。「中央線」と「中央本線」の2通りの名称で使用されることが多いが、塩尻駅を境に東京駅―塩尻駅間を中央東線、塩尻駅―名古屋駅間を中央西線とする呼び方での区別が馴染みやすい人も多いはずだ。

3月下旬、20年前に信州大学大学院経済・社会政策科学研究科修士課程を共に学んだ現在木曽町議会議長の大目富美雄さんと会食する機会があった。修士課程終了後も、大目さんの地域での取り組みの熱心さに交流を続けていたが、木曽を訪ねての交流で有意義な時間を過ごす事が出できた。

木曽町で宿泊したのだが、宿や食事処でも多くの外国からの観光客に出会う。聞くと「中山道ブームで木曽街道に時間を費やして楽しむ人が多い」と宿のスタッフから聞くことができる。確かに宿の食事担当の女性スタッフが、和食の食事を笑顔で楽しそうに提供する現場は、外国人のグループの皆さんに好評なのだろうと直感した。

途中1カ所、国道では数少ない固定式オービスに気付く。オービスは速度違反自動取締装置の通称だが、近年増え続けているのが「半固定式オービス」と呼ばれる新たなタイプ。これまで移動式オービスは、警察官の立ち合いが必要な仕組みで、通常は数時間の運用になっているが、半固定式オービスは深夜でも悪天候でも、無人で長時間連続して稼働し続け、警察庁交通局の資料によると、令和10年には84拠点、令和19年には201拠点にまで増えることになっている。

レーザーパトカーの取り締まり、ネズミ捕りと呼ばれる定置式速度取締用の機器も、最近では新型タイプが登場するなど進化が続いている。目的地に早く着きたいと思う反面、さまざまな取り締まりに注意を払いながらの運転は疲れる。

危険を避け、安全運転するには交通ルールを守る事が当然となる社会に近づいていることを実感すべきなのだろう。

（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

春の訪れを告げるように白馬岩岳地域にもコブシの花が咲きだす